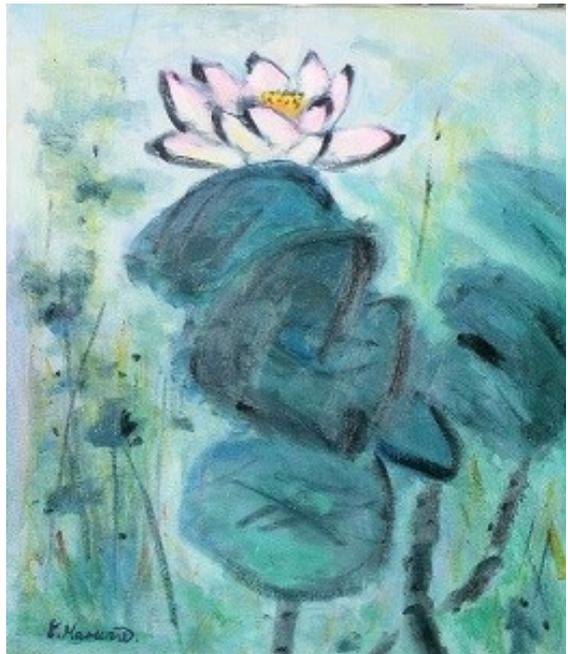


自画自説 1995年水墨画風の油絵「はず(紅)」F10号、「はず(白)」F10号



「はず(紅)」F10号



「はず(白)」F10号

夏休みを利用して北京の中央美術学院へ水墨画の短期留学へ行った。20日間の学習ですが最初の3日間は書道の練習です。水墨画の基本は書道を勉強するところから始まるとのこと。それが終わると花、鳥、山水から細密画と進み最後に篆刻で完了。午前中は先生の指導で描き、午後は宿題と自由に描きます。

水墨画の教え方は面白い。竹の葉を描くときは書道の小の字を書きます。雀を描くときは20通り位の手順を教えてくれる。確かに先生の雀とそっくりに描ける。また、中国の水墨画は西洋の遠近法を凌駕しているといえます。山の向こうに人々の生活を描いてありますが遠近法から見るとおかしいのですがこれが西洋の遠近法を凌駕していることだといえます。中国の水墨画は墨一色で表現するのが基本、日本の水墨画は色を付けて護摩かしていると主張する。

北京の公園には蓮の有名な所が多くあります。その後アルバイトで中国語を教えてもらっている大学生にお願いして早朝の公園へ案内いただき蓮のスケッチをした。それをもとに水墨画で描いた。自分なりに面白い水墨画が描けたと額装屋へ持参したらこれは誰の作品かとあまり良い水墨画の評価はなかった。それなら本職の油絵で水墨画風の油絵をと挑戦した。こちらの方が評価は高かった。